

お知らせ

愛媛大学医学部附属病院では、医学・医療の発展のために様々な研究を行っています。その中で今回示します以下の研究では、患者さんのカルテの記録や手術の記録を使用します。

この研究の内容を詳しく知りたい方や、カルテ記録や手術記録を利用することをご了解いただけない方は、下記【お問い合わせ先】までご連絡下さい。

【研究課題名】

乳癌術後の乳房再建における脂肪注入移植の併用の有用性について

【研究機関】 愛媛大学医学部附属病院 形成外科

【研究責任者】 戸澤 麻美 (形成外科 助教)

【研究代表者】 戸澤 麻美

【研究の目的】

乳癌における乳房全摘術後の乳房再建において、整容的改善が得られていますが、一部ではまだ前胸部の陥凹が残るなど、変形が残存しています。近年脂肪注入移植を併用することにより、再建成績の向上が報告されています。このことから小さな陥凹は脂肪注入移植で改善することができると考え、臨床試験を行っています。まだ保険適応にはなっておらず、脂肪移植の正確な生着率も不明です。そのことを知った上で、研究として行われている治療を受けられるかどうかを決めてください。

【研究の方法】

対象：乳癌による乳房全摘術をうけ、人工乳房または自家組織による再建をうけた、また一連の再建を受けている最中の患者で、患者本人が脂肪注入移植を希望されていること。年齢 20 歳以上であること。脂肪注入について以下のことを説明して理解されていること。

注入後の脂肪吸収による容量減少

脂肪注入を複数回要する場合もあること

脂肪採取部の血腫形成・感染・潰瘍形成の可能性・術後陥凹や変形
脂肪注入部位の嚢胞形成、脂肪硬化、石灰化の可能性
乳癌術後に適応する場合、主治医の長期的な診察が不可欠である（脂肪
壊死に伴う石灰化が術後1年以上を経て出現してくることがあるため）
乳がん検診での石灰化像による再検査の可能性
注入による脂肪塞栓などのリスク

【個人情報の取り扱い】

本研究は「個人情報保護法」(平成17年4月1日施行)および「疫学研究に関する倫理指針」(文部科学省・厚生労働省 平成19年8月16日改正)を遵守しています。情報は本登録のため新規作成した「日本形成外科学会疾患登録アプリケーション」で入力・暗号化、復号・集計されますが、高度の暗号化機能を有し、犯罪的行為等で情報メディアが第三者の手に渡っても内容解読は不可能です。

また、姓名、生年月日などの個人情報は登録情報に含まれず、研究対象者である患者さんが不利益を被ることはありません。

< 試料・情報の管理責任者 >

愛媛大学医学部附属病院 形成外科

さらに詳しい本研究の内容をお知りになりたい場合は、【お問い合わせ先】までご連絡ください。他の患者さんの個人情報の保護、および、知的財産の保護等に支障がない範囲でお答えいたします。

【お問い合わせ先】

愛媛大学医学部附属病院 形成外科 戸澤 麻美

791-0295 愛媛県東温市志津川

Tel: 089-096-5350